

一般社団法人 全国ホームホスピス協会 社員総会

2019年11月30日(土)午後12時～
於：広島国際会議場 コスモス



《育成塾 各論》

決議事項

- 第1号議案 第5期(2018年10月1日～2019年9月30日)
事業報告書承認の件
- 第2号議案 第5期(2018年10月1日～2019年9月30日)
決算報告書承認および監査報告の件
- 第3号議案 理事退任・就任の件

報告事項

1. 第6期(2019年10月1日～2020年9月30日)事業計画及び予算

1. まとめ

2019 年 9 月に大型台風が日本列島を駆け抜け、全国各地に大きな被害をもたらしました。協会としてはその都度、全国に広がっているホームホスピスの安否と被害状況の把握に対応いたしました。

昨年度は、福岡県久留米市（代表・樋口千恵子）、岡山県真備町（研修中）に大雨の災害が発生しましたし、本年度は千葉県鴨川市のフローラファミリー（代表・川名延江）が 2019 年 9 月に上陸した台風 15 号、19 号で被害を受け、長期の停電にも見舞われました。会員メールなどで呼びかけたところ直接物資支援に動いていただいた葛飾区のは一との家をはじめ、支援の申し出が相次ぎました。

医療的なケアが必要な方々が多く暮らしているホームホスピスでは、停電時の対策は必須であり、発電機や備蓄食料などの準備を周知することも必要です。今後、気候変動や地球温暖化の影響が顕著になり、想定外の甚大な災害も予測されます。と共に、開設時の『家』の決定には、当該地がハザードマップ上安全かなども留意することが求められます。

全国のホームホスピスは、今期末で正会員 42 団体、準備中の準会員 4 団体になり、建物（家）の軒数では 57 軒、準備中が 2 軒となり年々広がりを見せています。

新規にホームホスピスを開設する時に、まず家が見つかった段階で理事による現地視察、環境確認などを行っています。日本財団のホームホスピス拠点整備事業の申請に際して協会の推薦状が必要で、その点からも、事前に現地に赴き、民家の持つ空間の改修のあり方も一緒に考えていく道筋が重要だと考えています。

消防法の改正により平成 30 年 3 月 31 日までに、定員の半数が介護度 3 以上の場合（6 項のロ）は、スプリンクラーの設置が義務付けられました。そこで協会として日本財団に消防設備設置に関する緊急支援プログラムをお願いし、今期までに未設置だった 14 か所のホームホスピスにスプリンクラーが整備されました。また、新規に開設するホームホスピスには、当初からスプリンクラー設置を助言しています。但し、助成金額が 8 割を上限としている為、開設時や改築時には、初期投資の資金等が必要になることなども助言していきました。

また、協会設立以来、事務局には様々な相談が寄せられています。しかし、まだ実際に事務局として現地を把握していないところもあり、新規開設のところも含めて、今期は 32 か所のホームホスピスを訪問視察いたしました。実際に暮らしている人たちの様子や、働いている人たちのご意見なども伺うことができ、課題も見えてより現実的にアドバイスができることに繋がっています。

その中で、まほろば（福島県伊達市）の閉鎖を運営主体の財団法人が検討している段階で、協会として何とか存続の道を探ることに奔走しましたが、ホームホスピスの理念の共有などに課題が残り、開設 1 年での閉鎖となりました。残念なことでした。

主な事業である人材育成研修は、「全国合同研修会」「ホームホスピス実践者育成塾」「支部ごとの研修会」「実践者スキルアップ研修」を実施しました。内容は講師陣の充実や、煉られたテー

マで、ホームホスピス以外の方々にも多く参加いただき、盛況を博しました。(以下の事業報告をご覧ください。)これらの開催にあたり、その地域のホームホスピスに、会場の選定や広報などに尽力していただきました。合同研修会の仙台での開催には、東日本支部の方々が実行委員体制を作り、その活動が支部研修会にと繋がっていきました。伊勢で行われた育成塾では、早朝の伊勢神宮参拝もあり、全国の仲間がつながりました。また、本年度から実施したスキルアップ研修は、協会が研修先までの交通費を負担することで、3か所の団体が参加しました。今後、それぞれの課題解決のための先達の知恵を受け取って現場に活かすことになればと考えます。

本年度もレビュー(評価)を3か所実施しました。ホームホスピスが介護保険制度外事業であることから、組織運営や人員などに規制がかかっていません。だからこそ、ホームホスピスのケアの基準を策定し、それに沿って評価をしながらケアの質の水準を保つ必要があります。評価委員は協会の理事で実施していますが、それぞれが運営などの責任者であることから2名の日程を調整して行いました。自己評価に基づいて、組織運営、ケアの取り組み(スタッフに実際に伺いました)、地域づくりなど、基準に沿って一つ一つ確認していきました。できていないところを指摘するのではなく、どうしたら改善できるかを評価委員もともに考えていくという姿勢です。

「ホームホスピス」が今後の日本の社会にとって関心の高い取り組みとして注目されているからこそ、質の水準の向上に、レビューの実施が重要となっています。来期から「ホームホスピスの基準」を改定し、レビューを受ける側も、実施する側も、もう少し取り組みやすくしていきたいと考えています。

その中で全国のホームホスピスの課題に共通して上がるのが、やはり介護職の不足です。ケアの本質はやはり人です。「ホームホスピス実践者育成塾」は現場のスタッフの研修を大きな目的としているのですが、研修に派遣する余裕がない、シフトが組めないという声を聴きました。介護現場の人手不足は、今後も高齢社会にとって急務の課題であり、ホームホスピスに限ったことではありませんが、いかに人が育ち、介護の仕事に誇りをもって働ける職場を作っていくのか、今後のホームホスピスの広がりについての大きな課題になっています。

遠くない将来、配偶者と離別・死別した人を含む独身者が国民の過半を占める「超ソロ社会」が到来するといわれ、今後、独身者が安心して最期を迎えられるのかどうか大きな関心事になっています。特に大都市では「看取り問題」が大きな課題になっており、神戸市で「看取りの家」建設に地域での反対運動がおこり、マスコミで大きく取り上げられました。ホームホスピスという存在が、ひょんなところで脚光を浴びることになり、協会にも連日取材の申し込みが舞い込みました。その時に、ホームホスピスは、あくまで手厚く看取ってあげるための家ではないこと、日々の暮らしの延長上に看取りがあるのですから、最後まで精いっぱい生ききるための「家」だということを主張しました。そして、基本理念である「死を単に1個の生命の終わりとして受け止めず今を生きる人につなぎ、そこに至るまでの過程を共に歩む新たな「看取りの文化」を地域に広げていく」というまちづくりでもあると主張しました。まだまだ「死」をタブー視する家族や周囲の社会であり、孤独死への不安やこれからの道筋の不透明さの中に人々があるからこそその反対運動なのだと思います。だからこそ、自分の暮らしの中での死を肯定していくことが大切であり、ホームホスピスの実践が広がるのが、今後の日本にとって必要なのだと再確認しました。

この様に協会としての役割がますます重要になってきた1年でした。ホームホスピスがより良い形で日本全国の地域に広がっていくために、独自のケアの基準を定め、独自研修を実施し、独

自の評価の仕組みを構築していくことで、全体の発展的向上を目指していきたいと考えます。

① インフォメーション機能

◎定時社員総会

日時：2018年12月1日（土）12：00～12：40

於：APA ホテル TKP 仙台駅北

決議事項：

第1号議案 第4期(2017年10月1日～2018年9月30日)
事業報告書承認の件

第2号議案 第4期(2017年10月1日～2018年9月30日)
決算報告書承認および監査報告の件

第3号議案 役員改選

報告事項 第5期(2018年10月1日～2019年9月30日)事業計画及び予算

◎理事会の開催

第1回理事会 2018年10月13、14日 場所：ホテルフォレストピア

- ・第5期(2018年10月1日～2019年9月30日)事業
- ・2019年度ホームホスピス実践リーダー養成プログラム
- ・レビュー
- ・講師謝金内規
- ・みなしホームホスピスに対する協会から日本財団への推薦
- ・全国合同研修会

第2回理事会 2018年11月30日 場所：APA ホテル TKP 仙台駅北

- ・社員総会
- ・全国代表者会議
- ・ホームホスピス全国合同研修会
- ・レビュー
- ・スプリンクラー設置状況と今後の課題

第3回理事会 2018年12月1日 場所：APA ホテル TKP 仙台駅北

- ・理事長、副理事長選出

第4回理事会 2019年2月13日 場所：明治大学紫紺館

- ・レビュー
- ・2019年度ホームホスピス実践リーダー養成プログラム
- ・日本財団への推薦基準
- ・ホームホスピス実践者育成塾

- ・フォローアップ研修、スキルアップ研修
- ・正会員入会承認

第5回理事会 2019年4月20日 場所：なごみサロン

- ・レビュー
- ・2019年度ホームホスピス実践リーダー養成プログラム
- ・ホームホスピス実践者育成塾
- ・ホームホスピス全国合同研修会 in 広島
- ・支部研修会、支部会議

第6回理事会 2019年6月15日 場所：中野セントラルパークカンファレンスルーム

- ・ホームホスピス全国合同研修会 in 広島
- ・レビュー
- ・中長期計画
- ・役員改選

第7回理事会 2019年9月22日 場所：日本財団

- ・第6期(2019年10月1日～2020年9月30日)事業計画案・予算案
- ・レビュー
- ・日本財団への推薦
- ・ホームホスピス全国合同研修会 in 広島
- ・ホームホスピスデンマークの入会と州政府への推薦
- ・新理事の選任

◎事務局体制

事務局長：黒岩雄二、事務局：岡田瑞穂、岩切知峰（2019年3月～）

理事会記録：古野たづ子

- ・事務局が本格的に動き始めてから3年目になります。協会の活動と共に、業務も増えてきました。会員の管理、相談対応、情報発信、研修の企画などの運営に関わる業務の他、リーダー養成研修の申請対応、レビューの調整、日本財団への助成金申請の推薦業務など多岐にわたっています。それに伴い、事務局スタッフの増員や外部研修の受講など事務局機能の強化も図ってきました。

【受講研修】

- ・JCNE トラスト&イノベーション・シンポジウム（2019年7月12日）
- ・FRJ2019 第10回ファンレイジング・日本（2019年9月14日・15日）

◎広報活動

- ・ニュースレターたんぽぽ3号、4号の発行
- ・ホームページの更新（担当：黒岩雄二）
- ・FBにアップ（担当：岡本峰子）



② 人材育成事業

◎全国合同研修会の開催：

第7回ホームホスピス全国合同研修会(宮城県)

開催担当：東日本支部

第1日：2018年12月1日(土) APA ホテル TKP 仙台駅北

テーマ『地域で生きる 地域を変える』

内容：

基調講演 「制度にない制度を考える」

奥田知志（八幡バプテスト教会牧師）

シンポジウム 「地域で生きる 地域を変える」

飯田大輔（(株)恋する豚研究所代表取締役）

田中康博（NPO 法人 Ibasho Japan 副理事長）

立岡学（NPO 法人ワンファミリー理事長）

コメンテーター：奥田知志 コーディネーター：市原美穂

報告 「東日本のホームホスピスのいま」

今野まゆみ（ホームホスピスにじいろのいえ）

にじいろのいえで祖母を看取ったご家族



参加人数 297名

◀参加者の感想▶

- ・「家族機能の社会化」超高齢社会となった我が国において、重要な課題と思われ、とても考えさせられた。ホームレス支援とホームホスピスは、「制度にない制度」という点では似ていると思った。
- ・「地域で生きる 地域を変える」というテーマにおいて、このシンポジウムの発想は新しいと思った。
- ・介護、福祉とは異なるジャンルでご活躍されている方の話を聴けて良かった。
- ・NPOなどで実際に活躍されている方の話が聞けたことは貴重。制度の中だけで人が最期を迎えるということは正直限界を感じており、制度を利用しつつ様々なサポートの利用や提供が可能になる世の中になれば。
- ・講演を聴いて、時代はどんどん変化していることを実感。益々勉強をしていかなければいけないと気付かされた。
- ・ご家族の話を聴いて、私たちの仕事の意味を感じながら日々を大切にしたいと思った。
- ・若いご遺族からの話は、いのちがつながれていることを実感。
- ・東日本のHHについて具体的に知ることができてよかった。岩手県にもHHができたらいいな。



第2日：2018年12月2日(日) APA ホテルTKP 仙台駅北

内容：

記念講演 「いのちの輝きを支える」
鎌田實（諏訪中央病院名誉院長）

記念講演 「在宅医から見た福島の現状と課題」
鈴木信行（鈴木医院院長）

教育講演 「人生の最終段階における医療決定プロセスに関するガイドライン」
武田俊彦（前厚生労働省医政局長）

教育講演 「本人・家族の意思決定支援」
清水哲郎（岩手保健医療大学学長）



参加人数 339名

《参加者の感想》

- ・念願だった鎌田先生の話が聞けて感動。在宅や緩和ケアを支えるスタッフの息抜きという視点は、後回しにされやすいのですが、一呼吸置くきっかけになった。
- ・鈴木先生のお話は、現実の厳しさを改めて知ることができ、その中で生活している住民・医療者の大変さを知ることができた。福島の現状について気になりながらも、自分から調べたりすることもなく今日まで来てしまっていた。大きな被害を受けた福島にも今後も関心を持ち続けたい。
- ・人生の最後にかかわるものとして、また超高齢多死社会を支えていくものとして、とても大切な話を聴くことができた。
- ・ACPについて詳しく聞くことができ、勉強になった。どうしてもツールを用いてチェック的な方法と考えてしまいがちだが、本人と家族にとってより良いこと、願いや楽しみを大事にしていきたい。
- ・他で聴けない内容で参加して本当に良かった。



◎各支部活動

(1) 研修会

- ・西日本支部研修会

2018年11月23日(金) ラッセホール(兵庫県神戸市)

テーマ『ホームホスピスと緩和ケア』

内容 「ホームホスピスの広がり」 市原美穂

「今どきのホスピス・緩和ケア」 新城拓也(しんじょう医院院長)

「死に逝く人は何を想うのか」 佐藤由美子(米国認定音楽療法士)

鼎談 「ホームホスピスと緩和ケア」

新城拓也 佐藤由美子 松本京子



参加人数 193名



- ・東日本支部研修会

2019年7月20日(土) 福島看護専門学校(福島県福島市)

テーマ『ホームホスピスと地域の力』

内容 「ホームホスピスとは」 市原美穂

「生活の輪を地域で」 鈴木典夫(福島大学行政政策学類教授)

「生活の中で死とは」 鈴木信行(鈴木医院院長)

パネルディスカッション「地域と共にあるホームホスピス」

鈴木典夫 鈴木信行 市原美穂 茂木いずみ(結びの家くるみ)



参加人数 143名



- ・九州支部研修会

2019年9月7日(土) 熊本保健科学大学(熊本県熊本市)

テーマ『百まで生きる覚悟～身じまいの作法』

講演 「百まで生きる覚悟」 春日キスヨ(臨床社会学者)

鼎談 春日キスヨ 市原美穂 竹熊千晶



参加人数 100名



(2) 支部代表者会議

- 2018年12月1日 全国代表者会議(仙台)
2019年1月18日 東日本支部代表者会議(仙台)
2月13日 関東支部代表者会議(東京)

◎日本財団ホームホスピスリーダー養成プログラムの研修実施

2018年度

- ・片岡奈津子 (岡山県倉敷市) ・神戸なごみの家
- ・白谷美和 (福岡県糸島市) ・かあさんの家
- ・鎌瀬友理 (熊本県熊本市) ・われもこう

2019年度

- ・今村順子 (兵庫県姫路市) ・神戸なごみの家
- ・松尾春花 (東京都文京区) ・神戸なごみの家

合計 5名

前期より、希望者の書類選考をあらかじめ理事会で行い、面接によって研修の可否や研修先も決める方法に変更してきた。それに加えて、今期から研修途中で他のホームホスピスでの短期研修も必須として取り入れてきた。

それによって、研修生は様々な環境での研修を受けることができ、課題も見え内容も深まったと思われる。今後更に研修期間や時期などを検証して体系的に取り組んでいきたい。また、今後更に研修の中身を充実させるために各研修機関の指導者にも情報の共有化を図っていきたい。

◎ホームホスピス実践者育成塾

・総論① ホームホスピスの理念・環境

期日：2019年6月15日

会場：明治大学中野キャンパス (東京都中野区)

内容：

- ・ホームホスピスとは何か
市原美穂 (協会代表理事)
- ・ホスピスとは何か
林章敏 (聖路加国際病院緩和ケア科部長)
- ・老いの住まい「ケア論」再考
高橋紘士 (協会理事・東京通信大学教授)
- ・どうやって人を育てていくか～ケアチームのマネジメント～
竹熊カツマタ麻子 (筑波大学医学医療系国際看護学科教授)



・総論② ホームホスピスの組織づくり・運営

期日：2019年6月16日



【モーニングギャザリング】

会場：明治大学中野キャンパス（東京都港区）

内容：

- ・モーニングギャザリング
- ・日本財団より事業説明
吉倉 和宏（日本財団常務理事）
- ・「住まい」づくりの進め方
吉川みゆき（みゆき設計事務所代表）
- ・ホームホスピスという空間の課題
園田真理子（協会理事・明治大学理工学部建築学科教授）
- ・働き方をデザインする～労務管理の立場から～
高浪賢一（高浪社会保険労務士事務所代表）
- ・ホームホスピスの組織と運営について
黒岩雄二（協会事務局長）



参加人数 82名

《参加者の感想》

- ・理念を再確認、「ホスピスとは気づかいあう共同体である」という言葉に出会えて感動。
- ・「家」を見つけていくうえでの法律の縛りは大変わかりやすく勉強になった。
- ・組織として最低限おさえなければならないことが整理できた。
- ・環境は家に魂があり、ここにいてもいい、他の方に認められているということから始まり、空間や間がとても大事であることを学んだ。人を育てていくには、きちんと仲間を知り、互いに理解することが利用者様のためになるのだと思った。法律や労務管理なども学ぶことができ良い機会となった。
- ・全国にこんなに仲間がいることが分かり、心強い。
- ・ホームホスピスの理念は、私自身が今まで目指してきた理念にとってもあったものだと改めて実感。
- ・「住まい」づくりの進め方を聞いて、ホームホスピス実現のハードルが高くなったが、できることから取り組みたい。
- ・全国の方々と直接話ができ、元気をいただいた。

・各論① ホームホスピスのチームケア

期日：2019年7月8日

会場：神宮会館（三重県伊勢市）

内容：

- ・生活を分断しない医療
遠藤太一郎（いせ在宅医療クリニック院長）
- ・足元からバランスを良くして、健康寿命を延ばす
佐々木克則（フット&ボディバランスアジャストメント機構代表理事）
- ・うんこのケア
榊原千秋（おまかせうんちッチ代表）



・各論② 日々の生活ケア

期日：2019年7月9日

会場：神宮会館（三重県伊勢市）

内容：

- ・暮らしを整えるケア～看護と介護の連携～
松本京子（協会副理事長・神戸なごみの家理事長）
- ・看取りまでの意思決定支援
宇都宮宏子（在宅ケア移行支援研究所宇都宮宏子オフィス代表）
- ・最後まで食べるための口腔ケア
坂井謙介（坂井歯科医院院長）
- ・食と栄養支援
奥村圭子（杉浦医院地域ケアステーションはらぺこスパイス室長）



・各論③ ワークショップ

期日：2019年7月10日

会場：神宮会館（三重県伊勢市）

内容：課題と解決方法の共有

講師：奥村玄（GENプランニング代表、総務省地域づくりアドバイザー）



参加人数 62名

《参加者の感想》

- ・利用者様のケアを行うためには多くの人たちが連携することの大切さを改めて感じた。
- ・遠藤先生の話に共感できる部分がとても多く、医師の立場など勉強になった。うんこのケアと看取りまでの意思決定支援は、見入って聞かせていただいた。自分の職場でもうんこのケアに力を入れていきたい。毎日の中で食べること、出すことがきちんとできていると、よい睡眠もとれるようになると思う。
- ・生きることを叶えるためには本人の意思決定支援が重要だと学べてよかった。
「共に生きて生きづらさを考えている方に持っている力を発揮できるお手伝い」頑張って実践したい。
- ・ワークショップがチームで課題へ挑戦することで絆ができてよかった。



◎抄録の作成

第6回ホームホスピス全国合同研修会 in 東京での講演をまとめた抄録



「空間をもつ力」を作成し、正会員団体へ配布。

◎ フォローアップ研修（在宅ホスピス実践リーダー養成プログラム未受講団体対象）

ホームホスピス事業を開設するには、原則として「在宅ホスピス実践リーダー養成研修（以下、リーダー研修）」を履修している必要があり、現実にはリーダー研修を受けずに事業所を開設しているホームホスピスもあります。そのような事業所の運営者と実践のリーダー的立場にある人が1～2年かけて研修の単位を取得していただく「フォローアップ研修」という仕組みを設けている。

その内容は、1～2年間で100単位以上の獲得が必須（実習のみ、実習+座学…選択可）

実習…認定ホームホスピス（6項に掲載）にて現場実習 1日8時間の実習=10単位

座学…育成塾及び全国合同研修会への参加 1日研修の場合10単位

（例）育成塾5日間+実習5日=100単位

現在、フォローアップ研修を修了（100単位取得）もしくは実施中のホームホスピスは次の3団体です。

【第5期修了】2団体 晴れる家、ほしぞら

【実施中】1団体 てんき

◎ 実践者スキルアップ研修

リーダー養成研修を履修したスタッフがいないホームホスピスからスタッフのスキルアップのための研修制度を作って欲しいとの要望が上がり、今期からの取組として、実践者スキルアップ研修を開始した。これは、ケアを担っているスタッフが希望する他のホームホスピス（現在は下記の5カ所が受入機関）において2日～2週間程度、働きながら学ぶものである。

【受入機関】

ホームホスピス宮崎かあさんの家

ホームホスピス神戸なごみの家

ホームホスピス愛逢の家

ホームホスピスたんがくの家

ホームホスピスわれもこう

ホームホスピスひなたの家



【事務研修】

【これまでの研修団体及び内容】

2019年7/24, 25 フローラファミリー（事務研修）協会事務局

2019年9/3～5 晴れる家（現場研修）かあさんの家

2019年9/9～11 われもこう（事務研修）協会事務局



【現場研修】

③ 評価レビュー

☆レビュー(認定審査)の実施

2018年12月18日 心音

2019年1月10日 は一との家

2019年8月29日 まろんの家（再レビュー）

*評価審査委員：高橋紘士、市原美穂、松本京子、樋口千恵子、竹熊千晶、金居久美子
園田眞理子、岡本峰子

☆現地指導・視察及び相談支援

【開設前現地指導】

10/10 もくれんの家
2/5、8/4 NPO 法人はなみずき

【拠点整備前視察】

8/4 栃木かあさんの家

【相談支援】

10/26 にじいろのいえ
10/27 もりの家・ほしぞら
11/15 里の家・樺
12/16 ゆずの家
12/17 風の葉・宝塚つ・む・ぐの家
12/18 心音・愛逢
1/10 日南かあさんの家
1/20 晴れる家・は一との家
2/21 わこの家・ちえろっと・ほのぼの
3/15 われもこう
3/16 もくれんの家（開設記念講演）
3/20 おけたん宇佐・たんがく
3/24 咲夢笑・そらい・ひなたの家・癒居
4/21 神戸なごみの家夢野
4/22 あこや
6/3、7/3、20、8/4 仁泉会
6/ 8 ほしぞら
6/18, 19 にじいろのいえ
7/14 安庵
7/15 日南かあさんの家
7/21 かぞくのいえ、結びの家くるみ
8/23, 24 徳島とも暮らしの家ふくい（開設記念講演）

その他、電話・メールによる相談支援多数



④ 調査・研究

(1) ホームホスピスの環境と住まいに関する研究

会議を予定していたが、予算を使つての会議はなかった。

今後は、大学と連携しながら情報を共有していくこととする。

(2) ハワイ視察

2019年3月3日～4日(渡航期間は日本時間の3月2日～6日)

日本財団の在宅ホスピス調査に随行し、ハワイにおいて日本のホームホスピスと同様の事業を行っている「なごみフォスターホーム」をはじめ、ケアホーム、ホスピスホーム、ナーシングホーム、ホスピスケアセンター、長期介護施設について、日本との共通点や相違点および学ぶべき点や課題を調査し、日本におけるホームホスピス活動を充実させるためのヒントを得ることを目的として実施した。

① なごみホーム／アイナハイナケアホーム

日時:2019年3月3日 15時30分～18時

応対者:三浦佳代子さん



② Hospice Hawaii-Kailua(ホスピスハワイ・カイルアホーム)

日時:2019年3月4日 9時～10時

応対者:Shawnさん(男性、看護師・管理者)／浜本京子さん(チャプレン)

③ Aloha Nursing Rehab Centre(アロハナーシングリハビリセンター)

日時:2019年3月4日 10時30分～11時30分

応対者:Darrin Schadelさん(男性 管理者)

④ St. Francis Hospice(セントフランシスホスピス)

日時:2019年3月4日 13時～14時30分

応対者:Tariq Al Mutawaさん(医師 CMO)



⑤ Arcadia- Independent living, Assisted living, and long term

日時:2019年3月4日 15時30分～16時30分

応対者:Ann Navarroさん(Director of Sales)

【なごみホーム】

ケアホームの定員が5名ということが制度で定められていることに感銘を受けた。民家を利用した個別ケアの仕組みであることもホームホスピスと似ているが、私たちが経験的にたどり着いた5名という人数は、米国では制度として検証された数字であることに納得をした。また、保健制度の大きな違いにより、全体的に生活を最後まで支えるケア(介護)が見えなかった(なごみホームを除く)。米国の在宅ホスピスケアにおいて、在宅で過ごすこと、在宅で亡くなることは日本よりも難しいという印象を受けた。

今回の視察でハワイ(米国)のホスピスケア、高齢者ケアなどの実態を知ることができ、誰でも利用できるホームホスピス、最期まで自分らしく過ごすことのできるホームホスピスの意義を再確認することができた。

そのようなホームホスピスが、日本には現在 57カ所に広がっていることを改めて重く受け止めると同

時に、ますますその質を高め広げていく努力をしなければならないという想いを新たにした。

(3) 台湾視察

2019年9月23日～27日

台湾の人口構造の現状台湾の人口は23,539,816人、
高齢者扶養率（65歳以上の高齢者人口（老年人口）が15-64歳人口（生産年齢人口）に占める割合）：
17.96%（2016年12月末統計）出生数は年間170,000人とどまっている。近い将来介護問題と社会
を担う年齢層の減少により介護問題や看取りは社会の課題である。

今回の視察は、台湾において在宅医療体制の構築とホームホスピスに関心を持ち、数年前から日本の
在宅医療や介護システムの視察を重ねてこられた台湾在宅医療学会の余尚儒医師と奥様五十嵐由紀
子さんの尽力により実現した。

9月23日台東県東蘭村へ

村では地域住民の家に宿泊

9月24日台東泰源村（無医村）巡回診療、訪問診療に同行 東蘭村での市民との交流会

市原理事長と松本よりホームホスピスについてのプレゼンテーション

9月25日好家宅共生文化教育基金会理事との交流会

9月26日康健雑誌主催シンポジウムに市原美穂登壇

立法院（日本の国会議事堂に当たる）において国会議員と一般に公開された参加者に市原美穂、
松本京子プレゼンテーションを行い、質疑応答を受ける

9月26日大溪の古い町並みでまちづくりの取り組みを視察

古民家において地方創生に取り組む若い人たちにプレゼンテーションを行って意見交換



【台東県都蘭村診療所】



【立法院にて講演】



【泰源村(無医村)での巡回診療 同行視察】

【桃園市大溪にて星空講演】

⑤ そ

の他の事業

(1) 学会及び他団体からの講演・発表依頼が増え、協会理事のみならずホームホスピス運営事業者による講演、発表の報告を受けるようになってきた。

協会理事、(にじいろのいえ) 今野まゆみ、堤健太、(樺) 嶋崎叔子、(癒居) 落合利香 他

(2) 日本財団への推薦

【新規開設】

徳島ともぐらしの家ふくい

【拠点整備】

ひとり暮らしから、とも暮らし安庵・にじいろのいえ

(3) 開設

2019年4月 もくれんの家(鹿児島県日置市)

2019年8月 徳島ともぐらしの家ふくい(徳島県)

(4) 災害支援

千葉県鴨川市のフローラファミリー(代表 川名延江さん)が2019年9月に上陸した台風15号、19号で被害を受け、長期の停電にも見舞われた。会員メールなどで呼びかけたところ直接物資支援に動いていただいた葛飾区の「は一との家(代表 城戸恵子さん)」をはじめ支援の申し出が相次いだ。

収入の部		第5期予算額	第5期決算額		
助成金収入		19,550,000	19,550,000	日本財団	
会費収入		2,750,000	2,615,000	正団38 準団3 準個1 賛47	
参加費収入		4,700,000	5,214,364	全国2,189,000、育成塾2,928,864、西日本96,500	
レビュー審査収入		400,000	200,000	10万*2カ所	
寄付収入		40,000	137,675	ホームホスピスの基準含む	
雑収入			101	受取利息	
前年度繰越金		21,141,080	21,141,080		
計		48,581,080	48,858,220		
支出の部		第5期予算額	第5期決算額		
事業費	評価及び 認定	レビュー	1,250,000	468,452	旅費・レビュー審査日当
		ホームホスピスの基準	300,000	0	
	研修会の 実施	支部活動費	2,000,000	1,633,063	九州支部・西日本支部・東日本支部
		年次大会	3,500,000	4,798,031	12/1, 2(宮城県仙台市)
		育成塾	3,500,000	4,171,170	総論(東京都)各論(三重県)
		研修会等の抄録	300,000	300,864	空間のもつ力
	開設及び拠点整備		1,100,000	1,461,957	開設前相談・視察運営相談視察
	運営に 相関が つくり かかわ る 基盤	相談支援・ヒアリング			
		代表者会議	1,600,000	621,713	会議運営・旅費
		実践者スキルアップ研修	450,000	189,558	
調査研究と普及		500,000	411,876	実態調査	
管理費	人件費		5,000,000	5,291,951	事務局給与2名・パート1名(社保含む) 理事会記録雑給
	家賃		720,000	720,000	事務局家賃
	設備費		50,000	54,496	会計ソフト・セキュリティ
	印刷費		80,000	80,225	ニュースレター
	事務消耗品費		30,000	154,155	ディスプレイ・コピー用紙・文具
	会議費		100,000	157,308	理事会会場使用料
	旅費・交通費		1,500,000	1,405,000	理事会・事務局・事務局研修
	通信・運搬費		85,000	40,683	切手・レターパック・宅急便
	業務委託費		300,000	230,040	社労士事務所・会計事務所
広告宣伝費		200,000	119,194	名刺・ドメイン使用料	

租税公課	80,000	397,164	収入印紙・振込手数料・減価償却
本仕入れ高	27,000	0	
予備費	95,000,000	26,151,220	日本財団助成金

第5期(2018年10月1日～2019年9月30日)

一般社団法人全国ホームホスピス協会の会計を別紙のとおり決算いたしました。

2019年11月21日

一般社団法人ホームホスピス協会
理事長 市原 美穂

第5期

一般社団法人全国ホームホスピス協会

会計監査報告

1. 監査実施年月日 2019年11月26日
2. 業務執行の状況及び財産の状況 上記決算会計

第5期の上記決算の決算書、会計帳簿、預金通帳、領収書及び関係証拠書類を閲覧し照合した結果、収支報告及び各帳簿は相違なく適正に執行処理されていることを認め、真実であることを報告します。

2019年11月26日
一般社団法人全国ホームホスピス協会

監事 岡本峰子 

第 3 号議案 **理事の退任及び就任について**

退任する理事 園田真理子

就任する理事 山口健太郎

報告事項

第6期 事業計画書

(2019年10月1日から2020年9月30日まで)

1、事業活動方針

一般社団法人全国ホームホスピス協会として事業を開始して今期は5年の節目を迎えます。その間、ホームホスピスを運営する仲間が緩やかな連携を持ちつつ、理念の共有とケアの質の確保・向上に資するように、様々な研修の機会を作ってきました。今期は、これまでの研修やレビューなどの事業内容について見直ししながらブラッシュアップを図ってまいります。

- ①全国のホームホスピスの実態を把握するために、見学視察を行い、それぞれの課題に対して、相談支援を充実させていきます。特に組織運営に関しての研修会を開きます。
- ②開設2年以上経過している団体にレビューの機会を作り、一緒に考えアドバイスする体制を作ります。
- ③ホームホスピスを立ち上げたいと希望する方を対象にした「日本財団ホームホスピス実践リーダー養成研修」の研修内容を、それぞれの研修団体の指導者と共有し、お互いに研鑽の機会を作ります。また、新規に立ち上げるホームホスピスの開設支援や相談支援、また日本財団ホームホスピス整備プログラムの申請に際して協会の推薦が必要となる等、それぞれ会員の実態に応じたサポートをしていきます。
- ④これまでの「ホームホスピスの基準」に解説を加えた改定版をつくり、レビューを受ける際の目安になるようにし、またリーダー研修のテキストとしても活用できるようにします。

2、事業の実施に関する事項（次期はこのような項目を重点的に実施します。）

目的	事業名	事業内容	
① 基準に 沿って 評価 及び 認定	レビュー（評価）	開設2年以上の団体正会員	
	認定審査会	レビュー評価をもとに審査 今後の取り組みについての助言、支援	
	ホームホスピスの基準	改訂版の作成	
会 研 修 ②	全国合同研修会	「いのち 生ききる」 2019年11月30日、12月1日開催	広島県 広島市

	<p>ホームホスピス 実践者育成塾 (初期研修も含むが、これまでの 開設している団体も参加可能)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームホスピスの総論 ・ホームホスピスの基準に沿ってケアの 実践の2部構成で実施する ・運営や組織、NPOとファンドレイジング (助成金や公的文書作成) や、マネジメント 	<p>総論(東京) 4/18,19 各論(兵庫) 5/10, 11, 12</p>
	<p>支部研修会</p>	<p>西日本支部 (近畿中部を広げて四国、広島を含む) 九州支部、東日本支部、関東支部</p>	

目的	事業名	事業内容	
③人材育成	日本財団ホームホスピスリーダー養成研修	【事務局】 <ul style="list-style-type: none"> 日本財団ホームホスピスリーダー養成プログラム受け入れ窓口 面接、審査 リーダー養成研修 指導者会議 【指定ホームホスピス】 <ul style="list-style-type: none"> 研修生受け入れ 研修内容を組み立て、計画に添って、指導や相談に乗りながら、ホームホスピス立ち上げまで助言指導 	
④ホームホスピス開設支援及び拠点整備	開設と拠点整備	<ul style="list-style-type: none"> 建物が妥当かどうか ・仲間がいるのか 地域との関係づくり ・運営などのガバナンス 現地視察 ・法人設立支援及びアドバイス 物件環境確認 ホームホスピス整備プログラム推薦書発行 開設記念事業への協力 	
⑤運営にかかわる相談及び基盤づくり	相談支援 現状把握のためのヒアリング	<ul style="list-style-type: none"> 運営や事務、経理等のアドバイス 地域との関係づくり 	
	代表者会議 (事務局・事務担当者) *4ブロックに分けてネットワークをはかる。	<ul style="list-style-type: none"> 組織力を高める 運営体制の強化 	各支部 事務担当者
	実践者スキルアップ研修	ケアを担っているスタッフのスキルアップを図る為に、他のホームホスピスや協会事務局で学ぶ	
	緊急支援	<ul style="list-style-type: none"> 現地視察 災害支援 	
⑥ホームホスピス研究と普及	講師派遣	<ul style="list-style-type: none"> 他団体主催事業での講演 	
	研究論文・記事等のとりまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 各種調査及びデータ収集 論文等の保管 	
⑦組織運営(事務局)	社員総会の開催 理事会の開催	<ul style="list-style-type: none"> 業務執行の決定と監督 議事録の作成 	
	会員管理	<ul style="list-style-type: none"> 入会にあたっての理事会の承認 会費の確認 賛助会員の呼びかけ 	
	商標登録運営管理	<ul style="list-style-type: none"> 認定証の発行 無断で使用できないことを告知 	
	広報	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの充実 協会ニュースレター(たんぼぼ)の発行 テキストの発行 協会パンフレット製作 	
	経理業務	<ul style="list-style-type: none"> 会費、助成金の管理 	

第 6 期予算書

2020年10月1日～2021年3月31日

収入の部		第 6 期予算額	第 5 期予算額	増減差額			
助成金収入		27,390,000	19,550,000	7,840,000	日本財団		
会費収入		2,990,000	2,750,000	240,000	正団 43 正個 7 準団 3 賛 50		
参加費収入		4,300,000	4,700,000	△ 400,000	全国 200 万、育成 230 万		
レビュー審査収入		800,000	400,000	400,000	10 万*8 カ所		
寄付収入		60,000	40,000	20,000	ホームホスピスの基準含む		
雑収入		0	0	0			
前年度繰越金		25,801,320	21,141,080	4,660,240			
計		61,341,320	48,581,080	12,760,240			
支出の部		第 6 期予算	第 5 期予算額	増減差額			
事業費	認定 評価 及び レビュー	レビュー	1,300,000	1,250,000	50,000	旅費・レビュー審査日当	
		ホームホスピスの基準	0	300,000	△ 300,000	改訂版	
	研修会 の実施	支部活動費	2,000,000	2,000,000	0	九州支部・西日本支部・東日本支部・関東支部	
		年次大会	3,500,000	3,500,000	0	11/30, 12/1(広島)	
		育成塾	3,700,000	3,500,000	200,000	総論(東京都)各論(兵庫県)	
		研修会等の抄録	300,000	300,000	0		
	人材	リーダー養成研修	500,000		500,000	指導者会議	
	開設及び拠点整備		500,000	1,100,000	500,000	開設前相談・視察	
	運営 にか かわ る 基 盤 つ く り	相談支援・ヒアリング	1,000,000			運営相談視察	
		代表者会議	1,120,000	1,600,000	△ 480,000	会議運営・旅費 4 支部	
		実践者スキルアップ研修	315,000	450,000	△ 135,000	7 団体	
		緊急支援	600,000		600,000	災害時支援(人材派遣旅費、送料等)	
	調査研究と普及		250,000	500,000	△ 250,000	データ収集のための人件費・実態調査	
	管理費	人件費		6,500,000	5,000,000	1,500,000	事務局給与 2 名・パート 1 名(社保含む)理事会記録雑給
		家賃		840,000	720,000	120,000	事務局家賃・電話使用料
設備費		200,000	50,000	150,000	セキュリティ・三脚		
印刷費		80,000	80,000	0	ニュースレター		
事務消耗品費		30,000	30,000	0	コピー用紙・文具		
会議費		100,000	100,000	0	理事会会場使用料		
旅費・交通費		1,800,000	1,500,000	300,000	理事会・事務局		
通信・運搬費		217,000	85,000	132,000	切手・レターパック・宅急便・携帯電話		
業務委託費		300,000	300,000	0	社労士事務所・会計事務所		
広報費		1,500,000	200,000	1,300,000	ホームページリニューアル・名刺 ホームホスピスの周知啓発(パンフレット)		
租税公課		84,000	80,000	4,000	収入印紙・振込手数料		
本仕入れ高		27,000	27,000	0	ホームホスピスの基準 50 冊		
予備費		34,578,320	25,909,080	8,669,240	日本財団助成金 (2020年10月～2021年3月分)含む		
計		61,341,320	48,581,080	12,760,240			

